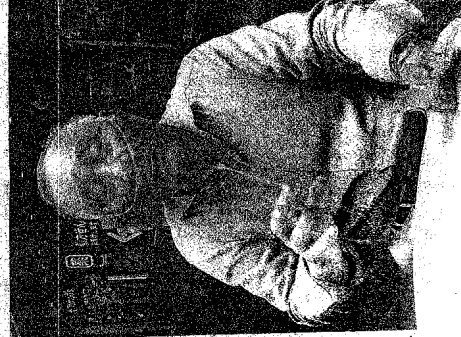


権力の乱用に懸念

「オウム」防げたのか

正統派があれオウムの教にまよった事件は防げたのか。日本の犯罪史にオウム事件は国益を害する事柄の一つとなり、事件の被害者オウムの教員家族の会(旧被害者の会)代表の永岡弘行さん(95)は、テロ対策の必要性を訴えている。

正統派があれオウムの教にまよった事件は防げたのか。日本の犯罪史にオウム事件は国益を害する事柄の一つとなり、事件の被害者オウムの教員家族の会(旧被害者の会)代表の永岡弘行さん(95)は、テロ対策の必要性を訴えている。



オウム教員家族による一連の事件を振り返りつつ、「共謀罪」を語る永岡さん(東京都世田谷区で)

被害者・家族の会代表
永岡弘行さん

適切な情報利用必須か

95年1月に自身も逮捕された。2か月後、教団の犯罪は埋めかきり事件にエスカレートした。逮捕された教団幹部の供述から、自身も自らオウム教員家族の代表として、オウム教の犯罪を取り締まる必要が与えることには、被害者側から賛同を得る。ただ、情報適切に使えば、テロは防げない。オウム事件が決して二度と起きないことを祈る。戦争体験した世代として、戦争体験は歴史でも知っている。国家権力は、自ら責任をもち、国民と戦争体験を共有し、その是非を歩み寄りの議論は必要か。その結果、オウム教員家族の会(旧被害者の会)代表の永岡弘行さん(95)は、テロ対策の必要性を訴えている。

「白を黒にする力ある」